

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690700028
法人名	医療法人 鹿児島愛心会
事業所名	グループホーム あすか
訪問調査日	平成 21 年 8 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月4 日

【評価実施概要】

事業所番号	4690700028
法人名	医療法人 愛心会
事業所名	グループホーム あすか
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字西仲勝1199-11 (電 話) 0997-55-7155

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月25日
評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(21年 7月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 3日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	16 人
非常勤	1 人
常勤換算	16.7 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建て、 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	光熱費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1000 円	

(4)利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	名瀬徳洲会病院 ふれあいクリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあすかは、平成16年8月に開設され、5周年を迎えたホームである。平成20年から地域密着型サービスとしての理念を職員全員で作上げ、地域との交流を深めようと努めている。庭には緑色の屋根の高倉が作られ、地域の方々と利用者がくつろぐ場所になっている。笑運動会を開催し、地域の他のグループホームの利用者をお誘いするなど、交流を大切にしている。職員は家族のように和みながら関わり合い、支えあう関係を築いている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価の結果は、職員会議で報告し改善点について話し合っている。改善点の取り組みの経過の記録がなされていない。2つの改善点(重度化や終末期に向けた方針の共有)(災害対策)は、改善に至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、4月から各ユニットごとに白紙の用紙にそれぞれの職員に書き込んでもらい作り上げ、各ユニットの特長が分かる自己評価になっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>奇数月の第4木曜日に開催することを予定して、2ヶ月に1回の開催が出来ている。事業所の報告や運営について話し合いがもたれ、意見をサービスの向上に活かしている。会議録を家族・出席者・市町村に公表している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は年1~2回行事に合わせて開催され、意見・要望を聞く機会を作っている。遠方の方からの手紙や面会時にも要望・意見が出され、職員は申し送りノートで共有して運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月の地域の清掃活動に、利用者と一緒に参加したり、小・中学校との交流と地元の人々との交流を積極的に重ねている。地区の自治会の加入を継続して依頼しているところである。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年4月に、職員と話し合い、地域との助け合い・交流の文言を取り入れ、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	時々、利用者の出身集落の行事に弁当持参で出かけたり、散歩時に地域の方々との語らいを心がけ、利用者が地域中で生活できるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月の地域の清掃活動に、利用者と一緒に参加したり、小・中学校との交流と地元の人々との交流を積極的に重ねている。地区の自治会の加入を継続して依頼しているところである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果は、職員会議で報告し改善点について話し合っている。改善点の取り組みの経過の記録がなされていない。自己評価は、4月から各ユニットごとに白紙の用紙にそれぞれの職員に書き込んでもらい作り上げ、各ユニットの特長が分かる自己評価になっている。	○	外部評価・自己評価の改善への取り組みを継続的にを行い、記録に残されることを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第4木曜日に開催することを予定して、2ヶ月に1回の開催が出来ている。事業所の報告や運営について話し合いがもたれ、意見をサービスの向上に活かしている。会議録を家族・出席者・市町村に公表している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者より(拘束について・認知症について・虐待防止について・緩和ケアについて等)の資料を提供してもらい、勉強会に役立て、職員のサービスの質の向上に取り組んでいる。民生委員の会の見学に事業所を使ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当者から出された書類の中から管理者が抜粋して、身体状況・日頃の様子を書いて報告している。「あすか便り」を年3回発行して、利用者の行事の様子など報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1～2回行事に合わせて開催され、意見・要望を聞く機会を作っている。遠方の方からの手紙や面会時にも要望・意見が出され、職員は申し送りノートで共有して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する時や入職する時は、必ず利用者に挨拶をするようにしている。入職後必ず1ヶ月近く慣れた職員がついて指導している。2ユニット間の交流があり、利用者はどちらの職員とも顔馴染みになっており、ユニホームも揃えて急な人員配置でも利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は市内である研修に出来るだけ参加できるようにしている。外部研修の報告は、職員会議で報告している。事業所内の新人研修計画・職員の年間研修計画は、つくられていない。	○	新人研修計画・職員の年間研修計画を作り、研修実施記録を残し、全職員の研修の周知を徹底され、職員のサービスの質の向上を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島のグループホーム協議会に参加して、研修に参加している。新人研修として、他のグループホームへ2泊3日の研修に行き、報告会をしている。事業所も他の他のグループホームから職員の見学を受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入院中に、体験宿泊を1泊してもらうことが出来る。在宅からの入居は、何度か本人に訪問してもらい開始している。入居後は、家族等と相談しながら工夫し、徐々に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者より昔の話・島唄・郷土料理など一緒に過ごしながら学び、楽しみ、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス・あすか会議等で、職員の気付きを話し合い利用者一人ひとりの思いや意向の把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で利用者本人・家族・担当職員・管理者・計画作成担当者の意見・要望を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標1年・短期目標4ヶ月の期間で、職員や家族の意見を拾い上げて評価して、見直している。対応できない変化が生じた場合は、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の往診・家族の要望により病院受診の支援をしている。外泊・買い物・墓参りなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。他科受診は、主治医に紹介をしてもらい適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての方向性は、口頭で家族に伝えている。明文化は、現在検討中である。	○	事業所としての方針を明確にされ、重度化に伴う意思確認書を作成することを勧めます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、ミーティングの中で話し合っている。気になる言葉かけのときは、その都度指導している。記録物は、事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり起床する方・部屋で食事をする方・入浴を朝入る方など利用者のペースを大切に希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者の力量に合わせて發揮してもらい、職員と一緒に食事をしている。高倉で日曜日ごとにお茶会をしたり、年2回の外食を利用者は楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴を予定しているが、希望があれば毎日でも可能である。拒否される方は、声かけ・タイミングの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事に関する一連の作業・掃除・洗濯物たたみ・花活け・犬の世話など利用者の力量に合わせて役割をもらっている。ドライブ・外食・バーベキュー・笑運動会など利用者の楽しみごとと気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩・畑仕事・ドライブ・買い物・墓参りと、利用者の希望に添ってでかけている。庭の高倉で過ごし、お茶会をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・非常口の鍵をかけずに開放している。外出傾向の方は、様子観察をしながら行動を察知して、職員が付き添って外出している。地域の方々へ見守りの協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間に、消防署の指導の下2回、自主訓練2回行っている。飲料水の備蓄がなされていない。	○	地震・風水害の避難訓練の自主訓練を行い、職員が自信を持って避難誘導できるように期待します。飲料水の準備をされることを望みます。

鹿児島県 グループホームあすか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取などのチェックをしている。栄養バランスは法人の栄養士からアドバイスを貰っている。利用者の状態や力に応じてミキサー食・小さく切ったりと支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニットがL字状に設計されている。食堂兼居間で利用者は日中過ごし、テレビの前・廊下・玄関にソファや長いすが置かれ、利用者は好きな場所で過ごせるようにしている。七夕飾りが飾られ季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	きび酢で、各居室を1ヶ月に3回ほど床やベッドの下を拭いて消毒して、清潔が保たれている居室である。職員と作ったオリジナルの表札を掲げ、タンス・パイプハンガー・位牌・写真など持ち込まれ、利用者それぞれの部屋が作られている。		